

哺乳類の細胞周期進行モニターにおける制御異常と発がん感受性

著者	達家 雅明
著者別表示	Tatsuka Masaaki
雑誌名	平成7(1995)年度 科学研究費補助金 重点領域研究 研究概要
巻	1995
ページ	2p.
発行年	2016-04-21
URL	http://doi.org/10.24517/00066204



哺乳類の細胞周期進行モニターにおける制御異常と発がん感受性

Research Project

All

Project/Area Number

07272237

Research Category

Grant-in-Aid for Scientific Research on Priority Areas

Allocation Type

Single-year Grants

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

達家 雅明 金沢大学, がん研究所, 助手 (50216991)

Project Period (FY)

1995

Project Status

Completed (Fiscal Year 1995)

Budget Amount *help

¥1,800,000 (Direct Cost: ¥1,800,000)

Fiscal Year 1995: ¥1,800,000 (Direct Cost: ¥1,800,000)

Keywords

発がん / 細胞周期 / サイクリン / サイクリン依存的キナーゼ / 染色体異常 / 発がん感受性 / G1阻害 / 放射線

Research Abstract

1. G0/G1細胞周期の進行に重要な役割を担っている機能分子群のひとつ、4型サイクリン依存的キナーゼ(Cdk4)の恒常的活性型変異体(constitutively active form)遺伝子を哺乳類細胞に強制発現することによって、紫外線ならびにX線誘発G1進行阻害効果が起こらないことを見い出した。G1阻害のかからなくなった細胞株では、紫外線誘発染色体異常の頻度が上昇した。また、X線誘発の染色体異常ならびに染色体異常の頻度についても、コントロールの細胞群と比較して、高いことがわかった。

2. 細胞周期進行のチェックポイントを制御する機構を構成するような新たな因子を検索した。その結果、酵母のチェックポイント欠損変異株、chkの表現形質を相補する哺乳類細胞の遺伝子として、新たな候補遺伝子を単離した。この遺伝子は酵母の分裂異常多発変異株、iplを相補する酵母遺伝子iplと相同性を認めた。

Report (1 results)

1995 Annual Research Report

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-07272237/>

Published: 1995-03-31 Modified: 2016-04-21